

アイディアの宝船

『日本語中級J301』を使ったクラス活動

Ja-Net 季刊ジャネット No.22 別冊

中級学習の工夫 『日本語中級J301』のウラ技 ...1
第6課「お化けと幽霊」の授業例 3

2002年7月25日発行

スリーエーネットワーク

中級学習の工夫 『日本語中級J301』のウラ技

NPO法人ICAS国際都市仙台を支える市民の会

初級クラスに比べると、中級教科書を用いているクラスは活気が乏しくなってくるようです。そこで、今回は『日本語中級J301』「8課 クジラと日本人」を使用して、学習者が読んで考え、覚えた言語形式を日本人との会話に積極的に生かしていけるような教室活動の工夫を紹介します。読むためには欠かせない漢字学習と会話のなめらかさに必要な相づちの学習事例です。

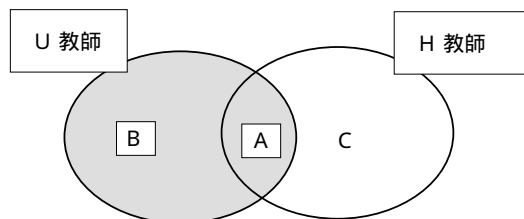
実施クラスの概要は次のようなものです。

学習者: 『みんなの日本語初級』を終了した、漢字圏、非漢字圏混合で12名

授業形態: 1週につき90分を2回。各課を6回で学習。

「会話ワイワイ」・「漢字でワイワイ」を各3回。教師2名でのチームティーチング。

学習内容



チームティーチングの枠組みモデル

A 共通	内容把握 語彙・表現 本文の音読・CDとの併読 イントネーション・プロミネンス
B	会話ワイワイ 会話のアクティビティ 考えて話す
C	漢字でワイワイ 漢字のアクティビティ 見て類推して話す

漢字でワイワイ (1課から継続的にしています T:教師 L:学習者)

目標: 文章の読解能力を養成し、語彙表現を拡大するため、漢字の認識力のアップを目指す

方法: 視覚情報だけではなく音情報や実物教材も使用した複合的でコミュニケーション的な学習方法で行う

指導時間: 漢字学習は1課につき、3回の授業で取り上げる

漢字1・2は各時間とも90分の中で10~15分、漢字3は90分行う

授業手順: 漢字1・漢字2 (漢字3にむけてのウォームアップ)・・・2回同じ内容を繰り返し学習する

本文音読 (教師用マニュアルよりルビなしの本文を使用): 文脈の中で漢字がわかる

CDを聞く チェーンリーディング **注** わからない漢字は教科書ルビ付本文で各自確認

シートにルビは禁止!・Tは必要に応じて音声アドバイス 全文をコーラスリーディング

漢字フラッシュカード (本文中よりTが重要と思う漢字語彙15を選択): 文脈がなくても読める

捕る 民族 産む 裏 神聖 理由 国際 感情 動物 親しむ 昔 貴重 守る 非難 反対

漢字3: 本文の漢字を教材として、語彙、表現を拡充したり、既習の漢字を整理したりする

復習 (ルビなし本文音読): CDを聞く 全文をチェーンリーディング

漢字シート (資料1) コミュニカティブに漢字を学ぼう

どんな言葉があるの? グループ(意味・音・形)に分けよう 例文から音訓読みを推測しよう

漢字読み方練習シート「J301漢字マラソン」(資料2) 1課からの復習・表記の確認

資料1 漢字シート抜粋

- 捕る
- a. ネズミを捕る 「ネズミ捕り」って何？
 - b. スピード(1.違反 2.偉反) 捕まる
 - c. 捕鯨 = 鯨を捕る
 - d. 逮捕

埼玉で男逮捕
出前バイク7台盗み
ひったくり次々9件

実物教材:新聞記事

資料2 漢字マラソン(一部)

28	捕る	
29	民族	
30	産む	
31	裏	
32	神聖	
33	理由	
34	国際	
・		
・		

読み方練習

- ・ a. 「ネズミ捕り」って? b. 「スピード違反」にまで意味を拡大する。
- ・ c. 「捕鯨」「男逮捕」の見出しから記事の内容を類推していく。
- ・ 音訓の読み方を例文からLがペアで考え、発表する。

会話ワイワイ(90分×3回の授業中の各回45分ぐらいで実施)

目標: CDと教科書を活用し文章体 会話体に、そして自然な会話のストラテジー獲得をも目指す

使用教材: J301CD・実物教材(鯨のひげや歯の加工品・・・茶托、ブローチなど)・IWC関連新聞記事

	教材	活動	ねらい	活動形態
ウォームアップ	読む前に + ことば 1,2-1 (146頁)	「動物について話そう」【30分】 「クジラのことを知っていますか？」 - 提示された言葉を使って話しましょう -	・ T-L、L-L間の本文への共通基盤を作る ・ 本文読解のための表現語句に親しみ、提示表現語句のレベルで話すための練習	ディスカッション
	本文 + CD 36・37	音読【30分】 CDを聞きながら各自イントネーションのヤマやポーズを考慮し、スラッシュをいれていく。 例: 日本人は昔からクジラに親しんできた。CDと併読する。 本文を音読する(各自の速度で)。	・ 音読作業 本文へのいざない ポーズ・イントネーション・速さに注目 自然な話し方の獲得	個人 個人 チェーン リーディング
相づちの練習	本文	練習1【15分】 本文を「です・ます+終助詞」体に直していく。 例: 日本人は昔からクジラと親しんできたんですよ。	文章体 会話体 例: だった ~んですよ。 ~であり ~で、 ~べき ~なければならない	L all (T主体 L主体)
	本文 + ことば 2-2 (146頁)	練習2【30分】 「相づち」の打ち方を学ぶ どんな「相づち」があるか? その発音は? 相づちを打ってみよう L1: 練習1の会話体を再生する L2: その文に賛成か反対か1文ずつが終わったところで相づちを入れる*	1ターンの会話練習 賛否の会話を作る * ああ、そうですか そうなんですか えっ、そうですか	T L all ペアワーク
	本文 + CD38	活動「私はコメンテータ」【30分】 L1が残りのLにIWCの会議についてコメントする(練習1総復習、全文) 聞き手のLは適切な相づちを打つ CD38を聞く → 再度 のタスクに挑戦 ←	発表形式にする 説明とそれに対する相づち CDと自分の相づちとを比較する (気付き 修正)	グループワーク

「漢字学習」と「会話練習」を大きな二つの柱として意識した授業は、学習者の中級教材への取り組みを積極的にし、自律学習へ向けてのいいトレーニングとなっていると思われます。

授業担当: 氏家洋子、秀真智子
文: 茂木真理

第6課「お化けと幽霊」の授業例

東京日本語文化学校 金子史朗

1. 『日本語中級 J301』の使用クラスのレベルについて

私が勤務する東京日本語文化学校では、初級と中級の間に「初中級」というレベルを設けています。このレベルでの学習目標は、初級で習った文型の復習をしながら、中級レベルの文型や語彙を身につけ、それらを使った表出活動をする事で運用能力を高めること。また、ある程度の長さまとまりを持った文章を読むことで中級以降の学習活動の中心となる「読み」に慣れさせることの二点としています。

私の学校では、初中級クラスで『日本語中級 J301』を使っており、ここで紹介する授業は、母国で初級の学習を終えて来日、入学した学習者（韓国人7名）に対して1日3時間×3日の9時間で行ったものです。

2. 第6課について

この課のテーマはお化けであり、学習者の興味をひくテーマだと思われるので、この課をやるにあたって以下のような方針を立てました。

- ・読解は内容把握にとどめ、細かい表現には立ち入らない。
- ・最後の「話し合ってみよう」をメインの活動とする。
- ・「話し合ってみよう」では、「人を怖がらせる話し方をしよう」という目標をたて、言葉の使い方や話し方を意識させ、工夫させる。

3. 授業活動について

具体的な活動について主なところを紹介していきます。

「読むまえに」

教科書の絵を見て、知っているかどうか、何と呼ばれているか、どんな特徴があるかなどを自由に言ってもらった。その後、各学習者に自分の国のオバケの絵を描かせ、そのオバケについて説明してもらった。この時、教科書97ページ②：「あなたの知っているオバケについて話してください」を利用したが、特に4番の「どうして出てくるのですか」や5番の「ユーモラスですか、怖いですか」という部分は詳しく話させ、そのオバケがどんなイメージを持たれているかをはっきりさせておいた。本文で述べるところの「お化けか幽霊か」をこの時点ではっきりさせておくと、後の本文の読解がやりやすくなると思われる。ちなみに日本のオバケということで、こちらはカッパを紹介した。



「読むまえに」では、日本のオバケ：カッパを学習者に紹介した（授業で使用した教師が描いたイラスト）

本文

このレベルとしては難解な語彙や表現が多く含まれているので、精読はせずに「お化けと幽霊の違いは何か」を読み取らせることを主眼にした内容把握にとどめた。「読むまえに」の活動の中で、お化け的なものと幽霊的なもののイメージをはっきりさせておいたため、新出語彙の意味確認をしながら読みすすめることで、かなり内容はとれているようだった。また、最初に付属のCDで本文を聞かせた。効果音や雰囲気を出した読み方に学習者も最初は笑っていたが、これも理解を助ける一助になったようだった。読んだ後は「文章の型」と「Q & A」で確認をした。

「ことばのネットワーク」

ここからは、この課の目標である「人を怖がらせる話し方をする」ための準備となる。「ことば1」では話の状況をよりわかりやすくするため、話に臨場感をもたせるための擬音語と擬態語を導入した。擬音語・擬態語といっても数多くあり、またこれ以降の学習でも何度も教える機会はあると思われるので、ここでは後の「話し合ってみよう」の時に役立つと思われるものを中心にイラストを使って導入した。教科書の108ページの2.「お化けと幽霊の舞台」の絵も使用したが、この絵に関しては本文のCDが役に立った。（日本の怪談



「お化けか幽霊か」、学習者のイメージを最初にはっきりさせておくと、後の本文の読解がやりやすくなる（学習者のイラスト）

によく出てくる鐘の音や"ヒュ～ドロドロ..."といった音が紹介できる)

次に怪談をする時の表現に注目させた。例えば、話の始め方として「これは～の時に聞いた話です」や「～で本当にあった話です」などの言い方や「...振り返ると、その女性が～だったんです。」といった言い方や「すると」「ところが」などの接続詞の効果的な使い方を例を示しながら導入した。

「話し合ってみよう」

学習者一人一人に怖い話をしてもらった。「ことばのネットワーク」で習った、話の始め方や接続詞などを黒板に書き、それらを使って話してみる、というようにした。はじめに教師がモデルとして十数年前に一世を風靡した(?)「口裂け女」の話をした。

続いて学習者に順々に話してもらったが、同じ国籍にもかかわらず、同じ話をする者はおらず、またそれぞれの話が初めて聞く話だったらしく、興味を持って聞いていた。学習者の中には「読むまえに」でやったようにオバケの絵を描いてきて、話のクライマックスの部分で効果的に見せるという工夫をする者もいた。学習者の話は、背筋の寒くなるような怖い話から思わず笑ってしまうような怖いというよりは愉快な話まであり、興味をひくテーマだったため、学習者同士での質問も多く、活発な活動となった。



「話し合ってみよう」では、教師が、日本で十年前に一世を風靡した「口裂け女」の話をした

4. 反省

授業は大いに盛り上がったのですが、最後の口頭発表は全員がうまくできたわけではなく、発表の完成度をもっと上げなければならぬと感じさせられました。その原因として、時間の都合から「書いてみよう」を省いてしまったことがあります。この授業では「ことばのネットワーク」から「話し合ってみよう」にいきましたが、やはり「書く」という作業を入れてから発表をしたほうがいいたらうと思いました。また、このレベルでの「発表」は話す側が辞書で調べた難しい言葉を使って話してしまい、聞く側がそれについていけない、ということが時々起こりますが、ここでもそれが見受けられました。「発表」というものが人に聞いてもらい、わかってもらえるものだと意識させる必要があったなと思うのと同時にこのレベルから意識させれば、この後の中級以降の活動にも役に立つのではないかと思います。



学習者のオバケの話は、怖い話から、愉快な話まで様々で、興味を引くテーマで、授業は活発な活動となった

『日本語中級J301』勉強会

今回『日本語中級J301』を使ったクラス活動をご報告いただいた先生方と著者をお招きし、勉強会を予定しています。『日本語中級J301』を使ってのその他のクラス活動などをご紹介いただき、参加者との意見交換などを通して一緒にこの教材で教える工夫を考える勉強会にしたいと思います。

日程：2002年8月31日(土) 13:30-16:30

場所：アジア文化会館(東京都文京区本駒込2-12-13 TEL:03-3946-4121)

定員：40名

費用：1,000円

*参加ご希望の方は『日本語中級J301』を予め目を通してご参加ください。

問合せ/申込み：スリーエーネットワーク講座係 tel:03-3292-6410 fax:03-3292-6197 e-mail:ja-net@3anet.co.jp

小社の日本語教材を楽しく活用して下さっているお話をよく聞きます。今回は、『日本語中級J301』で教える時の楽しい「アイデア」を2つご紹介いたしました。小社の教材を使った皆様のいろいろな「試み」をJa-Net編集室までお寄せください。